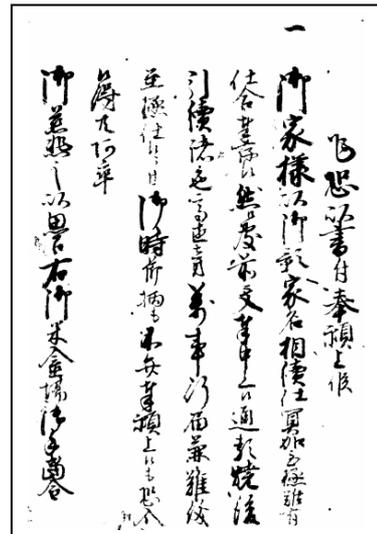


文章を読む 8

前は復習でしたが、この文書を最後まで読みたいと思います。



(o)の「右」はそのままで「右」、^レ「御」は「御」、^米「米」は「米」で、ここまでは問題ないと思

います。問題は次の「金」です。一見すると「金」のように見えます。しかしよく見ると「金」にしては中が複雑すぎる。ここは第10回に出てきた「思召」と同じように

「1文字に見えるが2文字」ではないかと疑ってみると、下の字が第4回で「可相渡置」の「置」と同じ感じで書かれていることがわかります。上の字も第10回で「恐入」と出てきた「入」とよく似ています。したがっ

てここは「入置」と読めそうです。次の「場」は「土」

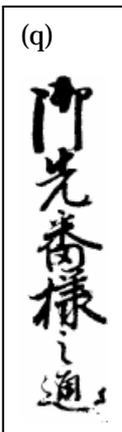


で「易」は「易」のような感じですから、「場」です。そろそろ慣れてきた人ははすぐに読めるでしょう。まとめると「御米入置場」となり、何となく意味が通ります。

(p)は「易」が今までより少しくずれています。次の「手」は「年」「手」?

という感じで紛らわしい(ちなみに「年」は「年」という感じです)。次の「當」も見当もつかないと思いますが、「當」という字で「当」の旧字です。この字は頻出します。「令」も難しいと思います。「令」や「合」にも見えますが、「金」です。この4文字はいずれも難しかったと思いますが、「御手当金」となります。慣れてくると、「御」と「手当」がすぐに見えて、最後は「金」しかない(「令」や「合」ではない)となります。

これで、1ページ目は終わり、次は2ページ目に入ります(全体の画像は次回に)。



(q)は(p)に比べるとずいぶん簡単です。「御」は「御」、^先「先」も「先」。次の「番」は、ちょうど良い力試しでしょうか。上の払いがないようにも見えますが、「番」です。次の「様」は簡単でしょう。ここまでの「御先番様」。次の「通」は飛ばして、次が「通」ですから、「之」しかありません(「之」の「之」というときは必ず「之」と漢字を使います)。まとめると「御先番様之通」となります。